

WATER REVIEW 2022 FROM KUMAMOTO

第4回 アジア・太平洋水サミット 閉幕

2022年4月25日(月)

日本水道新聞社
HPで無料配信

水の未来 熊本から変わる



サミット閉幕 強靱・持続・包摂 水から「質の高い社会」へ 参集でのべ6000人が参加 30カ国・地域、首脳、閣僚が熊本宣言を採択、実行策を議論

第4回アジア・太平洋水サミットは4月24日、首脳級会合において採択した「熊本宣言」をベースに議論を展開した九つの分科会（水と災害/気候変動▽水供給▽水と環境▽水・貧困/ジェンダー▽水と衛生/汚水管理▽ユース▽水と食料▽水と文化と平和▽地下水を含む健全な水循環）と二つの特別セッション（ショーケース▽島しょ国）の検討を「科学技術」「ガバナンス」「ファイナンス」の視点から取りまとめた議長総括を取りまとめて閉幕した。

議長サマリーでは、熊本宣言で示された強靱性（Resilient）、持続可能性（Sustainable）、包摂性（Inclusive）を兼ね備えた「質の高い社会」への変革を目指すため、科学技術の視点では、データの収集・分析・統合・共有等を通じたリスクと知見の把握とエビデンスベースでの政策決定、ガバナンスの視点ではリーダーや政府の政策の一貫性と幅広いステークホルダーの巻き込みと役割の付与、ファイナンスの視点では、コロナ禍の影響も受けSDGsの水と衛生に関連した目標等の達成が極めて困難な見通しの中で、水・衛生分野や水に関する防災・減災への投資がもたらす幅広い効果の大きさを数値として明確化することの意義が強く示された。

議論のとりまとめを行う総括統合セッションは、日本の水制度改革議員連盟の代表を務める上川陽子衆議院議員と水と災害ハイレベル・パネル（HELP）の議長を務めるハン・スンズ氏（元国連総会議長）を共同議長に、政策研究大学院大学の廣木謙三教授をディスカッションの進行役に行われた。

閉会式には、上川議員、ハン氏、中山展宏国土交通副大臣、大西一史熊本市長らが登壇。

閉会式で議論のとりまとめを振り返った

上川議員は、人類が持続的な環境を維持できない臨界点が近づいているという危機感を持つ中で、熊本での議論を通じて「強靱性、持続可能性、包摂性のある世界に向けた決意を示してくれた。引き返せないところに到達しないという希望と自信を持った」と述べ、今後のアジア太平洋地域の各国・各地域とローカルな行動、国連2023水会議等での国際プロセスにおける議論の進展に期待を示した（左上写真）。

中山副大臣は水問題の解決とこれを通じたSDGsの達成に向けて「連携を強固にしていく大きな一歩になると確信している」とサミットの成果を評価。関係者の行動に期待を示すとともに、日本としても23日の首脳級会合で岸田文雄首相が表明した「熊本水イニシアティブ」を着実に実行していく考えを強調した。

大西市長は、サミット開催への関係者の協力に感謝を述べるとともに、「世界の水の未来に希望の道筋になることを確信する」と述べ、熊本市としても豊かな地下水を次の世代に継承し、安全で持続可能な社会づくりに努めていく決意を示した。

また、今回のサミットの議論プロセスで重視されたユースを代表して日本の福岡県立城南高校の酒井耀さんとインドでユース活動を行うカリシマ・アソーダさんが、世界の水議論への若年層のさらなる参画などを要請するメッセージを発信した。

サミットの参加者は、参集でのべ約6000人、オンラインで1460人に達した。参加国は30カ国で首脳級の参加が18カ国、閣僚級等の参加が12カ国となった。

日本の取組みとしては、23日の首脳級会合で岸田文雄首相が表明した「熊本水イニシアティブ」の実践が、アジア太平洋地域の「質の高い社会」の実現を後押しする政策として注目される。

第4回アジア・太平洋水サミットの併催展示会では、多くの企業・団体等が展示する中、地元の高校生らによるユース水フォーラム九州、くまもとのブースからの発信が注目を集めた。

ユースの活動はサミット開催準備に当たって、世界の水および水環境の問題への関心を深めながら展開されてきた。

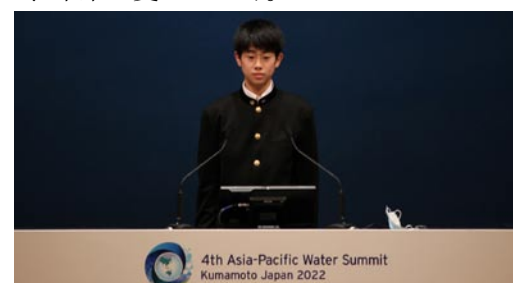
ブースでは、自らの研究活動や、水問題解決に向けた行動を提起する動画の紹介が行われ、多くの来場者が足を止めた。

24日には、来年ニューヨークで開かれる46年ぶりの水を中心議題にした国連会議「国連2023水会議」を共催するオランダとタジキスタンの会議事務局を担うオランダ政府のヘンク・オビンク水担当特使とアラル海救援国際基金のラハイムゾダ・スルタンチェアマンらが立ち寄り、高校生生の英語での発表に耳を傾けた。

高校生は通訳を介さず意見交換を行い、急ぎ会場ではトークセッションが開かれ（右上写真）、世界の水問題と未来への思いについて議論した。高校生たちは、国連2023水会議のアジェンダについても意見を表明。会議共催両国の担当者は、ユース水フォーラム九州、くまもとの活動を高く評価し、会議への積極的な参画を要請した。この意見交換の内容については、両氏が登壇した総括統合セッションでも披露。若者がパートナーとなり得る優良事例として評価され、熊本・九州をきっかけにユース活動が世界に広がっていくことを期待した。

SDGsの達成へ、世代、ジェンダーを超えた包摂的なアプローチが求められる中、サミットの開催準備の中で育まれた熊本・九州の高校生の水への関心と行動が世界とつながり、世界を動かし、未来を変えていく。

閉会式に登壇した酒井さん



ユース水フォーラム・九州、くまもと 世界とつながる、未来を変える